シンポジウムを開催
元気なウィズガスライフ

住宅生産団体連合会、キッチン・バス工業会、日本ガス石油機器工業会、日本ガス体エネルギー普及促進協議会の4団体が組織する「ウィズガスCLUB」は今年結成4年目を迎える。6月11日、都内で開催された「第4回ウィズガスCLUBシンポジウム」では、「明るく元気なウィズガスライフ」のテーマの下、暮らしに求められる快適性や省エネ性について、多方面からアプローチが試みられた。有識者によるパネルディスカッションではエネファームへの期待が語られ、様々な提案がなされるなど盛会となった。

「食育活動が好評」
事務局（日本ガス協会業務部）の活動報告

ウィズガスCLUBは、コラボ（日本ガス体エネルギー普及促進協議会）と住宅生産団体連合会様、キッチン・バス工業会様、日本ガス石油機器工業会様の4団体が「豊かで潤いのある生活」を目指して、2006年6月に設立しました。①豊かで潤いのある生活を提案する「政策提言」②食育活動を通じた「社会貢献」③広く生活者に向けた「情報発信」④省エネの推進、CO_2削減に向けた「環境貢献」の4つの活動を4団体が力を合わせて活動しています。

昨年度の活動を紹介します。

小林信久業務部長

第2回フォトコンテストは1431点の応募があり、グランプリと3部門賞を選定しました。第2回全国親子クッキング大会は各地で予選を行い、新宿で決勝大会を行いました。各地の活動を見ると、親子で楽しくご飯を作るだけでなく、コミュニケーションが深まったという声が寄せられました。学校関係者からも「これが食育である」と評価いただきました。我々もじっくり長く続けていきたいと考えています。

情報発信ではBS放送で服部幸應先生の「Let's Shoku-Iku」を放映、ブルー&グリーンプロジェクトの給湯器セミナーを全国4会場で開催し約800人が参加されました。環境貢献ではブルー&グリーンプロジェクトに協賛し09年3月末には73万台が出荷され、今年度中に100万台を達成する見込みです。

次に09年度の活動を紹介します。引き続きウィズガス住宅の普及を推進します。環境・ヘルシー、快適・さわやか、ロングライフ・フレキシブル、団らん・幸せ、安全安心の5つのコンセプトを基に健康増進、環境トップランナーの住宅の実現を目指します。家庭用燃料電池エネファームは、今年1月末に共同宣言セレモニーを行い、5月から本格販売を開始しました。ウィズガスCLUBとしても拡販に本腰を入れ、CO_2削減の中期目標計画の中心に位置づけて取り組みたい。

ウィズガス住宅の普及として6月11日付で「ソーラーエネルギー利用推進フォーラム」を設立しました。太陽光、太陽熱給湯を大いに利用促進する目的で、現在太陽熱とエコジョーズの組み合わせの開発を進めており、従来から1歩も2歩も進めて環境貢献と業界の発展に向けて新分野に取り組んでいきます。

第3回フォトコンテストは応募が1400点で幅広く楽しい作品が寄せられました。本日、皆さまの投票によりグランプリを決定します。第3回全国親子クッキングコンテストは、今回から文部科学省からも後援をいただき、ますます広がりを持ち、活動を支持いただいています。より多くの親子が参加されることを期待しています。決勝大会は来年1月10日を予定しています。

低炭素社会、省エネなどのキーワードがありますが、ウィズガスCLUBでは世の中の流れをいち早くキャッチし、活動していくことで社会の発展に寄与していきたいと考えています。

B&Gプロジェクト100万台へ
ベターリビング参与　清水一郎氏

ブルー&グリーンプロジェクトはエコジョーズ、エコウィル等の高効率給湯器を対象に、普及1台に対し1本ベトナムで植樹をする活動で、4月現在76万台になった。ベトナムハノイ郊外の11haで植樹しており定着率、成長率が高く山の保水率も高いので現地から感謝されている。

「環境保全推進住宅プロジェクト」で高効率給湯器の普及に貢献する企業に感謝状を贈呈しているが、今年度から機器の流通事業者も対象に感謝状贈呈制度を創設。高効率給湯器のデファクト化を推進する。さらに今年度はエネファームも近々認定機器に登録する予定だ。

省エネは連携、チームプレーが大切。ガス業界の進めるデファクト化と連携し、100万台の次のプロジェクトを立ち上げていきたい。

パネルディスカッション「住まいに求める快適性と省エネ性」

パネルディスカッションでは「住まいに求める快適性と省エネ性」について活発な意見交換が行われた

省エネ＋αの価値観を

パネリスト
早稲田大学教授
田辺　新一氏

基調講演では床暖房の話をさせていただいた。私はもともと人間の近くの環境に興味を持っており、吸う空気や涼しい服はどんなものかなど、ハードではない部分の研究もしている。しかし、ここのところ省エネというとすぐにハードばかり出てくる。本当は良いものを作るには、どんな使い方をすればいいのかということが重要。今日は住宅あるいはエネルギーに計量できる部分と、計量が難しい人間の行動や感覚について議論できればいいなと思っている。

省エネ性能を突き詰めると大変メカニックな、いわば「メカメカした」家、ガンダムのような家になるように思われるが、もっとそぎ落とされた内容でもいい。パッシブ的なものもありだと思う。住宅性能がしっかりしていれば、床暖房のような放射暖房が活躍できる。

欧州では住宅をリノベーションするが、そこに入れるものは家族に伝わる家具だったり、古い電化製品だったりする。省エネをけちくさいと思わず、いい拘束条件と捉えて発想するといいのではないか。

建築については、建築環境総合性能評価システム（CASBEE）という手法がある。業界も注目しており、CASBEEのポイントを上げる相談が最近増えている。備品のカタログにも「これを入れると点数が1上がる」という主旨の表現も見られる。戸建てについてはこれからだと思うが、確実に差別化要素として認識されてきている。

住宅の省エネトップランナー制度、長期優良住宅というものも出てきている。しかし家電と違って難しいのは、家族構成や暮らし方などで結果が大きく変わってくること。しかし、様々な経験を経て断熱・気密性を確保し、効率の良い機器を使用することは最低ラインとなっている。豊かな暮らしのためには、この先を行く、次のコンセプトが住宅には必要になっている。

実は200年住宅というのはあまり賛成ではない。早く壊される家のほとんどは物理的要素ではなく、家族構成が変わったなど社会的理由で壊されている。現在の日本人はその家で誰かが亡くなったことを非常に嫌がる傾向がある。そういう感性につながる部分を解決しないと、200年住宅を作っても住み続けるということにならないと思う。

エネファームのような新しい技術をいかに広めていくかという問いに答える前に、現在の家のメカメカした部分について考えてみよう。

世の中の企業は利益を得るために比較的手離れのよい製品を求めている。たとえば家電の場合、エアコンは1回の設置工事で電気から水の問題から何から、すべて済んでしまう。しかし、家をリフォームしようとすると、まず値段の相場が分からないし、リフォームに来る人が本当に信用できるかどうかも分からない。テレビを見ると、知らないうちに物を買わされたとか、必要のないリフォームをさせられたとか、悪徳業者の話が報道されている。米国ではアーキテクトが小さな仕事もやってくれるが、日本ではなかなかそうは行かない。信頼できるところがあればそこに頼みたいというのが、本音である。

エネファームやガス器具はメンテが必要で、ある意味手がかかる。世の中の効率化の流れとは異なるが、ガス会社は器具の点検などで家の中に入れるという利点を生かさない手はない。ガス会社は大変信頼されている企業であるから、器具を売るのではなく、サービスを提供するという観点で活動すればいいのではないか。暖房機を売るのではなく、快適な暖かさを提供するのだという考えになった途端に、次の技術の普及につながっていくと思う。

赤池さんが「粋に暮らす」ということを提案したが、粋に暮らすには時間が必要。日々追いまくられる中で粋な暮らしを実現するには、エネファームのような新しい技術を、豊かさとか人間の時間を延ばしてくれるところに使っていくようにすれば、省エネ以外の価値も大きくなるのではないだろうか。

豊かさという感性に訴える

日経BP社
日経ホームビルダー編集長
安達　功氏
パネリスト

工務店や設計事務所向けの雑誌を出版する我々の役目は、住宅産業と消費者の間に橋をかけわたすことだ。今求められているのは、消費者の気付きを掘り起こすための情報発信をいかに行うかである。そのためのツールがいろいろそろってきているので、どう使えばいいかを提案したい。

使いこなすべきツールとキーワードは、建築環境総合性能評価システム（CASBEE）＝総合化、改正省エネ法＝定量化、ラベリング＝見せる化、減税や各種補助制度＝お得感の4つである。

心の満足―省エネに役立っているとか、CO_2削減に貢献したとか―と体の満足―気持ちいいとか―を、きちっと分かりやすく伝えるのは消費者の気付きを促す上で非常に重要。規制や制度は受け身になると面倒だが、うまく使おうという目で見ると攻めの材料になるものがたくさんある。

CASBEEは、省エネ性能だけでなく、快適性や景観への配慮など環境品質・性能を評価するシステム。建築物の環境品質・性能（Q＝Quality）と外部環境負荷（L＝Loadings）を算出しQ／Lで評価する。環境ラベリングにより省エネ性と快適性を総合的に比較、実感できるのが特徴で、単純に環境負荷だけを見てエネルギーを減らすのではなく、環境性能をクオリティでみて評価しようという考え方だ。

改正省エネ法は建物の断熱性能と設備の性能を一体的に評価する。一定の条件を設定し、その住宅の1次エネルギー消費量を算定し、省エネ性能を定量的に表示する。

CASBEEやエコマーク、省エネ性能表示などの様々なラベリングツールは「見える化」で根拠の明確なエコ性能を自慢する。消費者の気付きを掘り起こし、「やりたいけど面倒」というハードルをクリアして行動に移させるための大事なツールである。

CASBEEや改正省エネ法などの規制をうまく活用し、「見える化」で消費者を誘導する。そこに減税や補助制度を提案すれば、お得感が実感でき、消費者が自ら動いてくれるようになる。

CASBEEは一般消費者の間でも認識は広まりつつある。金融機関も関心を持っており、利率がよくなるとか、金融の条件がよくなるとか金融システムに組み込もうという話もある。それは、CASBEEで高い評価をもっていると、愛着がわくことで寿命が延びる、維持管理のトータルコストが減ってリスクが下がるという考えから。家のポテンシャルが上がって愛着がわくと、そういう評価も出てくるようだ。

6月4日から長期優良住宅法が始まった。いわゆる200年住宅だが、従来と大きく異なるのは、住宅の中に時間の概念が強く入ってきたことだ。

どうしても省エネ性能を評価する場合、1年間でどうだったか、この時期でどうだったかと瞬間的に評価してしまう。定量的に評価するにはそうせざるを得ないのだが、本来、人間が心地よいと感じるにはもう少し時間の流れが必要で、定量的ではなく感覚的なものなのではないか。住宅に時間という概念を入れようとしている長期優良住宅は、省エネとうまくマッチすると面白くなると感じている。

新しい技術を普及させるには、逆に普及しない理由を考える必要がある。かつて消費者にインタビューしたとき、今のエコ設備は同じような名前で何が違うのか分からないという声が上がった。細かいところの競争に入り込むとサービスを提供される側は何のことだか分からず、小難しくて面倒と思ってしまう。これでは消費者には伝わらない。

その点、エネファームに使われている「ファーム」は非常にいい言葉だと思う。ファームという言葉からは耕すという行為が浮かんでくる。耕すのは自分の手を使って参加すること。愛着にもつながっていく。できればそういう方向で展開していくと、単なる器具にとどまらない、豊かさという感性に訴えるものとして認識されるのではないか。

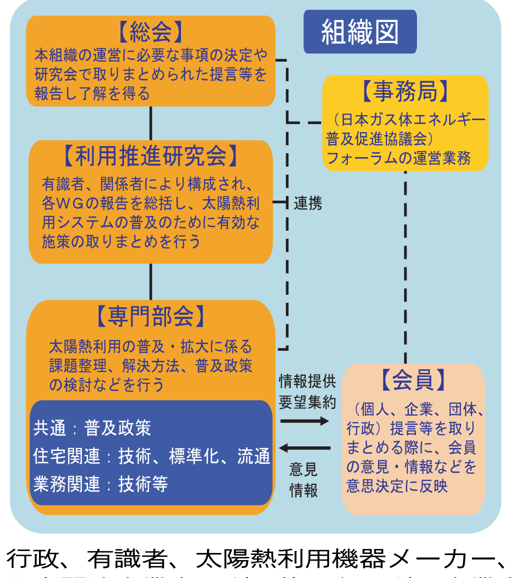
ソーラーエネルギー利用推進フォーラム設立

コラボは太陽エネルギーの有効利用・普及拡大を目的に6月11日、「ソーラーエネルギー利用推進フォーラム」（代表・中上英俊住環境計画研究所代表取締役所長）を設立した。低炭素社会実現には再生可能エネルギーの一層の活用が必要であり、中でも太陽光発電は今年度から国の補助金が復活し、普及が加速している。太陽熱はエネルギー変換効率が高く、給湯器のガスシステムと合わせることで安定的な利用が可能になる。一方で今後普及のために解決すべき技術や政策的課題がある。

フォーラムは太陽エネルギーの住宅・建築物への適用を拡大し、ガス体エネルギー業界が低炭素社会実現に貢献する目的で設立した。設置期間は2012年3月までで、①太陽熱システムの省CO_2性能の検証、新しい太陽エネルギー利用技術の調査②太陽熱システムや太陽光発電の設置性、施工性の向上、普及拡大のための流通等の施策③太陽エネルギー普及拡大に必要な規制緩和や補助政策―などについて研究会や専門部会で検討する。年1回程度シンポジウムを開催し、新システムの紹介や活動報告、政策提言を行っていく。

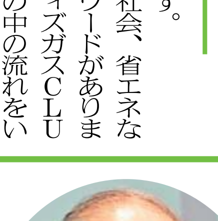
ガス事業者やソーラーシステム振興協会などの関係団体やメーカーに加え、有識者や行政、自治体も参画する。

【ソーラーエネルギー利用推進フォーラム】



行政、有識者、太陽熱利用機器メーカー、住宅関連事業者、ガス体エネルギー事業者等がガス体エネルギーとの親和性が高い太陽エネルギーの利用促進のための方策の検討、情報発信、政策提案を行う。

家庭分野のCO_2削減を
日本ガス体エネルギー普及促進協議会　村木　茂会長



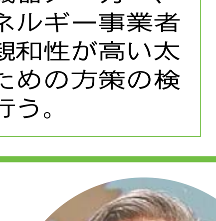
昨日（6月10日）、麻生太郎首相からCO_2排出量削減に向けた中期目標が発表されました。2020年に05年比15%の削減であり、その達成はそう簡単ではないが、CO_2削減は進めなければなりません。

特に家庭用分野のCO_2削減についてウィズガスCLUBの4団体が果たす役割は非常に重要と考えています。今年度から家庭用燃料電池エネファームが本格発売になりました。太陽光発電、太陽熱給湯と並び、家庭のCO_2削減の切り札になります。

最新の技術を駆使し、4団体の連携をさらに深めて家庭分野のCO_2削減をしっかりと進めていきます。

豊かで潤いがあり、環境と共生できる生活を目指していきますので、今後ともご支援、ご理解のほどよろしくお願いします。

省エネと快適の両立へ
日本ガス石油機器工業会　内藤弘康副会長



本日は第4回ウィズガスCLUBシンポジウムにご参加いただきましてありがとうございました。

田辺先生からは床暖房のお話をいただきました。私の会社もガス機器を作っているので床暖房のPRをしておりますが、床暖房の素晴らしさは体験しないとなかなか分からないものです。展示会場などで体験スペースを設けてはおりますが、実際に家に入れた方の話は「ヒートポンプのエアコンは足が暖まらず、ぜんぜんだめ」など、実感が込められていて説得力が違います。ぜひガス関係の方もご自宅に入れて体験されるとよいと思います。提案が違ってきます。

今後もウィズガスCLUBの連携を密にして、床暖房に代表されるような省エネ、省CO_2、快適性の両立した暮らしを目指したいと思います。よろしくご指導をお願いいたします。